

学校評価アンケート分析

2017. 3. 16 教頭

1 今年度の結果分析

(1) 生徒アンケート

①評価平均が3.0未満の項目

Q1、9、11、15、36

- ・Q1、9、15は学習が絡む質問である。Q9は自分が課題提出をできていないことと勘違いした生徒が多くいる可能性が高い。生徒達は学習しないといけないという意識と、十分にできていないという自己分析があると思われる。
- ・Q11や36では掃除や環境問題への取り組みなどが不十分との認識がある。

②評価が3.5以上の項目

Q4、18、24、25、29、30

- ・Q4の美術・工芸科の活動を除くと、学校のスローガンや生徒指導関連である。スローガンの周知が進んでいることは学校への帰属意識が高まっていることを示し、生徒指導項目の高さも同様の帰属意識と規範意識の高まりを示すものである。実際に校内の様子は落ち着いている。

③評価4と3で、あわせて90%を越えている項目

Q2、4、17、18、19、24、25、29、30、32、33、35

(2) 保護者アンケート

①評価平均が3.0未満の項目

Q30

- ・環境問題に関わることであり、生徒と一致している。

②評価平均が3.5以上の項目

Q1、10、12、17、18

- ・Q1は評価4と3をあわせて93.1%である。100%を目指して今後も頑張りたい。
- ・本校の指導やシステムへの評価が高い。生徒指導、美術・工芸科の活動に加え、今の時代らしくメールメイトシステムでの情報発信が評価されている。

③評価4と3で、あわせて90%を越えている項目

Q1、2、5、8、10、11、12、13、14、16、17、18、19、20、23、26、29

- ・全七問呼応目⑩の内17項目で肯定的評価が90%を越えた。そのほか80%を越える項目も多く、保護者の皆様の理解に支えられて今の波佐見高校があると痛感する。

④その他

- ・Q27で「子どもは学校の授業を理解している」が3.1（4と3あわせて84.5%）と生徒の行き詰まり感の割に高いのは興味深い。

(3) 職員アンケート

①評価平均が3.0未満の項目

Q6, 8, 18, 19, 21, 31, 37, 40, 41, 42, 43, 44

- ・授業改善に掛かる項目で評価が低い。あわせて職員の研修が不足していると感じている職員も多いようである。次年度は公開授業・研究授業の活性化、校内校外研修の活性化などの方策を練る必要がある。また、生徒も清掃に問題を感じていたが、指導する職員も同様である。次年度も生徒会で改善策を検討してもらう。
- ・グリーンカードの活用に工夫が求められる。生徒指導と検討したい。
- ・進路指導における上位者指導が必要である。進路指導部・学年と協力し、波佐見高校上位者指導システムを構築しなければならない。

②評価平均が3.5以上の項目

Q13, 14, 24, 25, 34, 50

- ・美術・工芸科が関与するものの評価が高いが、養護教諭・担任・相談の連携やインターンシップ指導、ホームページでの情報発信などは評価が高かった。
- 特に生徒に寄り添う指導は今年度活発に行われていた。

③次年度特に力を入れるべき項目

- ・業務の分散化と効率化
- ・生徒の学習習慣の確立、部活動との力率
- ・計画的な進路指導
- ・授業改善
- ・清掃活動の徹底
- ・グリーンカードの活用

2 過年度比較

- ・生徒アンケート、保護者アンケートともほぼ同じ傾向であり、過去3年間の間で評価がわずかながら向上してきている。学校が落ち着いてきた経過と重なっており、これまでの指導蓄積の成果であろうと思われる。
- ・職員アンケートは昨年度より急降下している。全体を平均すると約0.4の低下である。一昨年度と比べると0.1向上しているものの、大きな低下である（12人の職員が、全ての評価を1ポイント下げたことになる）。評価1が7箇所付いている点も見逃せない。昨年度の満足度が低下した要因を探るとともに、見えてきた改善点に対し、早急に対応策を策定し実行しないといけない。